

けんしゅう だより ③

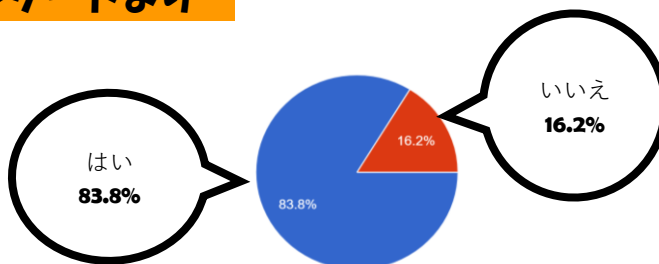
中央中等教育学校 授業研究・FEWC 推進部
学年研修②第3号 令和7年1月22日発行

＊第2回公開研究授業後の学年別グループ協議・アンケートを元に作成しています。

＊スペースの都合上、ご意見同士をあわせたり、編集させていただいた部分がございます。

1. アンケートより

Q 本年度、生徒が創造的な学習活動を行う授業をデザインされましたか？



「はい」

創造的な学習活動を行う授業の内容

- ・内容の理解の差で、(生徒間で)さまざまな役割ができていた。
- ・授業内容の後半に自分で設定した課題を行う授業
- ・各自の現時点での自分の力を客観的に捉えさせるプリントを作成し、授業中に取り組みさせた。
- ・geogebraを利用して、図形の性質を各々発見させる作業を行った。
- ・各個人が問題(学習教材)を選択して、演習を行う(学習ペースを自分で決めて取り組む)。
- ・小テストを各自で解かせたあと自力では解けない問題にチェックをさせ、解ける人の下に行って教えてもらう。それぞれが解けない理由を確認し、解決するべき課題を明確にして1つは解決までたどり着くよう指導した。
- ・複数の視点から書かれた資料を、担当を決めてそれぞれ読解して共有した後、グループで本時の問いについて考える授業。
- ・インフォメーションギャップアクティビティを行っている。場面設定についてはかなり気をつけて授業をしている。場面設定がしっかりとしていると、自分ごとに置き換えたり、相手の立場になって会話をすることができやすい。
- ・教科書の学習が終わり、入試問題を扱う授業になってから、解答をクラスルームで配信し、授業の最初に答え合わせと解説を各自のペースで行い、わからないところの質問を受けたり、ポイントを絞った部分的な解説のみ行うようにしている。授業の後半は次の時間の問題の予習で、生徒同士が議論しながら問題を解き進めている。
- ・全体説明だけではなく自分で時間配分を決めて同じ課題に取り組む時間を取るようにしている。
- ・歴史) 当時の人々のさまざまな立場から歴史的な事象をとらえ、共有して多角的にとらえる。その後、現代の自分として政治や社会など多面的に深く考えるように設計した。
- ・公民) 学習内容に合わせて論点を用意して話し合い活動を行った。
- ・自身の受け身を動画で撮ってもらい、その動画とお手本動画を見比べ、自身のできていないポイントをスライドにまとめ、改善していく内容。
- ・AIを使って、読み取りおよびリスニングの課題に対して、複数の難易度を生成する。
- ・その種目において常識とされているパフォーマンスは本当に有効なのか考えさせた。
- ・各々の生徒の家庭生活での課題解決をテーマにしたホームプロジェクトの取り組み
- ・各自が本文を読んで疑問に思ったことを掘り下げ、調べ、発表する予定である。
- ・単元のセクションごとに「新しい価値を生み出すための個人的な問い」を立てさせ、単元で習得したことを使いながら単元の最後にプレゼンをさせた。「新しい価値を生み出すための問い」は、Chat GPT のような百科辞典的な知識ベースの答えで済んでしまうような問いではだめ、とした。
- ・生徒同士で探究を進められるのは、この学校だからこそできること。答えを示すのでは身につかない。協働しながら思考する過程が大切だと感じている。

2. 学年別協議

1学年 小澤先生 道徳

探究的で創造的な学びや学習の個性化を実現する課題設定及び授業展開について

- ・公正・公平について調べ学習ではなく、自分ごとに置き換えて価値観の伸長を行っていた。
- ・教科書中心になっていたが、自分ごとに置き換えると個性化につながるのではないか。
- ・吹き出し君等を活用しながら、生徒とのインタラクティブが多いので、自分の考えをアウトプットする機会が多かったように感じた。
- ・公正・公平を自分ごとでさらに広げることで学習の個性化につながると感じた。
- ・授業の流れは生徒の考える時間とそれを出す時間が多かった。
- ・場面設定の重要性→道徳においては学習の個性化につながりやすいかもしれない。
- ・授業者のキャラクターがしっかりと生きていて、生徒たちも発言がしやすかったように感じる。
- ・公正・公平を実現することの難しさを伝える場面があってもよい。
- ・授業の落とし所(最後の部分)について具体性を持たせたい。一方、定義付けや公正・公平と向き合う姿勢にフォーカスしたい
- ・1つ1つの意見について「公正公平」を軸にした質問があってもよい。問い返す。軸がぶれない学習の個性化につながるのではないか。
- ・「みんなどういうことを意識した?」という問いかけが、「なぜ方法を考えなければいけないのか、なぜそれが必要なのか」を考える方にシフトさせたい。方法論からの脱却。
- ・読み物を通して、様々な視点から考えることも個性化。

2学年 坂上先生 技術

【授業者の補足・説明】

- ・1学期の設計からの続き。既定もあつたが殆どの生徒が自由設計。今年は、プラス要素として必要なことも自分で考えている。
- ・創造的・探究的…どのように完成させるか。ということで、「販売できるようなものにしよう」とした
- ・工夫として、動画を載せているため、個別にこだわって探求できているのではないかと考えている。
- ・今後、ものを販売するとか、管理するとかはということかということでもとめにする予定。

探究的で創造的な課題設定について

- ・実習なので、そもそもが創造的。そこに探究・創造をさらに組み込むのが難しい。目標設定で探究性を感じられる。学習の最適化の点では、どの道具を使っても良いというのがまさにそれにあたる。
- ・違和感に気づいたらすぐに申し出る、道具の扱い等は4月からよく話をきて、指導が行き届いているため、道具を自由に選ばせても問題が起きない。
- ・班の分担:発表の代表も4人の順番を決めておく、掃除係、道具持ってくる係がある。
- ・振り返りシート…時数、作業を示し、予定を決めさせる。課題、反省、次回の課題を書かせている。何をポイントに作業するかを振り返りシートに書くことで内容の充実をはかっている。
- ・「急ぎたい」と書いている生徒の課題意識をどのように使い方や完成度に向かせるか。
- ・個性化…自分の立ち位置を把握する力、どこまで行きたいか設定する力が必要。

3学年 井上先生 保健体育

【授業者の補足・説明】

- ・受け身の授業で怪我が非常に多いので気をつけたい授業だった。
- ・今回から動画を見て改善ポイントを見つけるものを行った。本来は数をこなしてあっていないポイントを見つけるものを行う。このやり方だとできていない子はできていないことが多い。
- ・受け身の授業は教える方もやる方もつまらないイメージが有るが、今回のような子どもたちが意欲的に学びたくなるように今回の形をとった。

- ・教員が全部指導したり、紙に書いて言いたくなるのを我慢して、生徒自身で動画等を見て気づき、スライドにまとめることで、自分専用の教科書になるような形にしたいと思った。
- ・動画を視聴する場面においても、一緒に見て教師が教えたいポイントで止めて伝えたいところを抑え、一人ひとりが見る活動にして、自分で気付けるような活動にした。

探究的で創造的な課題設定について

- ・できている子ができていて、できていない子ができていないという受け身の授業でありがちなものを、前事の自分の様子の動画と、お手本の動画と比べて課題を見つけられているのが、個性化のポイントになっていると思う。
- ・自身の受け身動画は多方向から撮ってあったため、色んな視点から見られてよかった。
- ・受け身のやり方をペアで話をしながら確認することで、お互いに指摘ポイントが見つかり学びが深まった。
- ・生徒一人ひとりが自分のスライドに今回の授業で得たことを文字として残してあることはいい流れ。体育以外でも取り入れるべき。
- ・最後のまとめにここができるようになったという前向きなポイントも書かせることで、生徒のやる気にもつながった。
- ・生徒個人のまとめや課題点をまとめたスライドを一人一つ作っていたが、一人ひとりのスライドなので、全体で共有していないため、今後共有をしていけばペアの人の視点だけではなく、他の人のできていないポイントも見ること、より自身の活動に生かせる。
- ・練習している動画を何回か撮ってはいたが、何度も撮って改善していく様子がまとめられているとポートフォリオ評価のように使うことができるところもあるのかなと思った。
- ・ペアで組むと、レベルの高いペアと、気づきが少ないペアという差ができてしまうが、途中途中で集め、大事なポイントを生徒に言わせ、みんなの前で実践させることで、気づきの浅いペアにも伝わるがあった。

4学年 寺島先生 英語

【授業者の補足・説明】

- ・Lesson の内容をジャーナリストの視点で News Letter としてまとめるという状況設定をした。事前に、このストーリーで自分が最も心を動かされたことについて考察し、クラスで共有しておいた。ストーリーを事実として伝えるだけでなく、自分の視点を入れ、心を動かされるようなストーリーを語るよう指導した。
- ・Lesson を通じて「互いに尊敬する気持ち」や「他者に対する寛容な心」を感じ取ってほしい

探究的で創造的な課題設定について

- ・授業の導入でおこなったペアでのミニディベートでは生徒が活発に意見を交わしている様子が見られた。→自分の意見ではなく、じゃんけんでたまたま担当になった立場からの意見を述べ合い、さらに相手を変えて3ラウンド行うことで、様々な意見を聞くことができる。
- ・Canva ツールを使うことはこの授業展開において必要だったか? →例えば手書きのものであっても本時の目標は達成できると思うが、様々な表現方法を試してみることができるので生徒が楽しんで取り組めると考えた。また、共有方法も瞬時にできる。
- ・要約だけでなく、自分の視点を盛り込むことで、より深く題材に迫り、自分で考えた内容を表現することができた。

5学年 上田先生 保健体育

【授業者の補足・説明】

- ・ゲームの中で三段攻撃を成功させるという目標に対して、各自が自分の役割を自覚し、足りない部分は助けあうことが必要。バスケットボールなどに比べ、バレーはボールに触る時間はとても短く、試合を成り立たせるためには積極的に声を掛け合うことでラリーが続く。このことは、日常生活の他者との関わりや生涯スポーツとして楽しむことにも繋がると思う。

探究的で創造的な課題設定について

- ・ルールと技術が必要なスポーツについて、自分たちで課題を見つけるための構成の授業であると感じた。各グループで課題意識を持って準備運動・補強運動などをやっていた。補強運動をやったことが、試合にどのように生かされたのかを生徒が考えていたのかが気になる。

・生徒たちに考えさせている構成であった。前時のゲームの映像を見ながら振り返る中で、生徒が率直かつ遠慮なく弱点を指摘したり助言を与えたりしていた。数学の授業のときと生徒の様子が違う。数学では、自分たちの弱点を指摘したり、修正するということがスムーズではない。ただ単に問題が解けるかではなく、問題についてどのように取り組むかなどを互いに意見を出し合って考えさせたい。

・昔バレー部の顧問だった。学習の個性化：アタッカーはアタックの練習など、役割ごとに練習できていた。先生の話し方から「伝えよう」という気持ちが分かった。「三段攻撃を次回検証する」という展開も「今日学んだ解法が本当に使えるのか」といった形で数学や部活指導でも使えそうだ。生徒の日記では、「1回で返したほうが強かった」と書いてあった。

・素晴らしかった点：「本当に三段攻撃は有効なのか？」という疑問を持って授業が終わったのはよかった。探究的な授業であった。中等の生徒は他校と比べて高校2年(5年)であっても健気に頑張る。生徒が元気に楽しそうであった。チームごとに工夫点が違うのも(一樣でないのが)良かった。指導案通りに進んでいたことに感心した。ルーブリックにも対応していた。バレーは仲間づくりにもなるが、失敗した生徒は落ち込んだりする可能性もある。声掛けをすることで空気を変え、盛り上げることを学べるはずである。

・準備体操や補強運動も自分たちで考え、チームごとに異なることに驚いた。自分の考えの古さを自覚した。

6学年 山浦先生 数学

【授業者の補足・説明】

・文系の上のクラスで、レベルの高い生徒が揃っている。問題もレベルの高いものを扱った。場合の数について、考え方の定着をさせたい意図を持って行った。授業最初の類題は簡単だったので、解説も含めてすぐに終わったが、その後の応用問題は難易度が高く、生徒はこちらが放っておいても延々と数学の話をしていただけなのは良かった。研修テーマとの関連については、数学はもともと探究的だと思っており、今回の授業では今までやってきたことを今回の単元にどうつなげていくか、個と協働で考える場面の切り替えとバランスの取り方について重点をおいて実施した。ペアとグループの個別での支援が参考になった。誘導とひらめきの経験が大事。

探究的で創造的な課題設定について

・自由進度で行っている割合が大きいようだが、進度の統一についてはどうしているのか。→類題と応用題の必須の課題を定めて取り組ませている。

・難易度が高い問題に対して、わからない生徒も出てくると思うが、どうするのか。→解説は類題に対して最初に行い、学習活動が始まったら基本的に一斉介入はしない。必要に応じて机間巡視を通じて個人やグループごとに支援する。

・レベルが高くて驚いた。自分の授業では生徒の基礎ができておらず、こういう展開にならないのでうらやましい。

・英語の授業だと自らすんではこんなにしゃべらない。生徒の活発に議論する姿が印象的だった。

・数学なので解答することがゴールのイメージがあるが、解答例が配られてから議論が始まっていることが新鮮で驚きだった。

・生徒同士が考えながら一緒に、楽しそうに進められているのが素晴らしい。

・自分の授業では生徒同士は協働的な話し合いはできているが、内容が本当にわかっているのか疑わしい場合や、テストではできないケースがよくあるが、どうなのか。→テストになるとできない場合は確かにある。

・生徒の協働的な話し合いの場面において、生徒同士の関係に、教師-生徒のように教え合う関係、互いに横並びで問いかけをし合いながら進んでいく関係、うまくいかないときの気持ちを言葉を掛け合って共感しながらすすんでいく関係など、多様な関係が見られたことが印象的だった。

3. 研修を通じて学んだこと・振り返り

【学習の個性化を伴った探究的で創造的な学習の導入】をテーマとする授業改善の取り組みに関して

- ・理解度に応じて、適切に課題を選べるようにしたい。
- ・今後も 生徒自身が課題を設定するような授業を模索していきたい。
- ・各自の現時点での自分の持つ力と課題を的確に把握、自覚させることの難しさを感じている。これができないと学習の出発点がわからなくなり、個性化ではなく好き勝手な取り組みになってしまう。進度をどう合わせるかと評価をどうするかという問題も残っている。
- ・思考力の成長に応じて、取り組めるような課題を提示できるようになりたい。
- ・教材研究や自前の準備は大変だが、取り入れていきたいと思う。ゴールはないのかもしれないが、どう終着点を用意すればいいのか、よくわからなくて手が出ない。
- ・学習の個別化をさらに意識して、授業を行っていきたい。
- ・数学は学力差が大きく影響する教科だと思うので、より一人ひとりに効果的な授業を考えていかなければと思って。ただ、進度がまちまちになり、個別的な探究活動では授業の流れが止まってしまうことも現実的に起こるので、どうバランスを取っていくかを考えていかなければとも思う。
- ・個で考える場面と、協働して考える場面のバランスを意識して授業デザインをしていきたい。
- ・探究的で創造的な学習が教科の到達目標の達成に役立つような授業を行いたい。
- ・生徒が自らの学習を深化していく授業デザイン方略——今後、このテーマで単元を一つデザインしてみようと考えている。生徒が自分で学んでいく力をつける上で、大事なテーマだと思う。
- ・探究するテーマや単元を貫く問題の重要性を認識した。受験前で、教えるべき内容が多いだけに、教科書が終わるまでは説明が大切なのも事実。説明と演習のバランス、解答を配るタイミングの工夫、個と協働のバランス、時間設定の工夫など考えるべき点は多い。
- ・今年度実践してみて、問いの難易度設定に課題があると感じた。簡単すぎる問いになってしまい生徒にとって探究したくなる問いではなかったのが反省点だが、かといって難しすぎるとそもそも解く気をなくしてしまう生徒もいるのかと思うと、どうしても不安になってしまう。ただ、今回の研究会で難しい問いにも生徒が向かっていけることがわかったので、思いきって難易度を高めた課題を設定してみたいと思った。
- ・単元を貫く問いと学習の個性化がマッチングしていないと感じた。自分のなかで軸をしっかりと設定しないと、その場その場の授業になってしまうような危機感を感じた。
- ・教科書ができるだけ早く終わるように、探究的な時間が十分に確保できないのが課題である。
- ・個人で取り組む時間にすると、どうしても生徒によって探究的部分で差ができてしまう。全員が探究的な学習ができるように、課題設定を工夫していきたい。
- ・説明を簡潔にするが、しっかりと基礎知識をともなった思考ができるようにすること。今回の授業のように、自身の躰きポイントをまとめることができる活動をとることができればより個別の能力向上につながると思ったため、実践していきたい。
- ・学生の英語の段落作文スキルに関して個別のフィードバックをメールで提供するスクリプトの開発をする。
- ・まだまだ授業の中で生徒の個性化や、ICT の使い方ができていないので、もっと向上させたい。
- ・道徳における「学習の個性化」についてもっと勉強したいと思いました。
- ・学習指導要領に合うような単元構成を意識して行きたいと思います。

- ・学習を個性化することにより、個々の課題を見つけることはできるが、全ての生徒の学習到達度を引き上げることとイコールにはならず、今後の課題だと感じている。
- ・学習の個性化の深化を図りたい。
- ・授業の方針(目的)を示したあとは各自で自由に問題に取り組ませている。初めての内容についてもいきなり解法を教えてそれを使わせるというより、一度今ある知識の中でがむしゃらに挑ませてどう感じたか、どこが難しく感じたかを大切にしたいという気持ちがある。そのため、問題に挑戦して少し経ったあとに解法を解説するというスタイルをとっている。しかし、活動に夢中になっている中でその作業を中断させて、解説をする場合、全員の意識を向けさせることが難しく解説も理解してもらえているのか少し不安になることがあり、そこが私の課題だと考えている。
- ・体育の授業でどのように取り込めるか、活動量確保や本校生徒が体育の授業で求めることを踏まえ、よく考えていきたい。
- ・「歴史」の個性化は、うまくやらないと独善的になったり、思想が偏ったり、ただの思いこみになったりする危険性がある。そこにどう対処するか。
- ・「授業後も生徒が話題にする」そんな問題提起を多くしていきたい。
- ・実習のなかで、今後検討していきたい。
- ・柔軟な発想ができていないことが、他教科の授業を参観して自覚できた。今後も生徒との関わりの中で工夫していきたい。
- ・ChatGPTのような生成 AI をいかに活用して個性化や創造性の育成を実現できるかを研究してみたい。
- ・個性化を伴う学習と、集団の場である学校の特性を生かした学習とのバランスが大切だと感じた。
- ・同じ競技を同じ場所で同じタイミングでするなかで、それぞれが自分の課題を見つけることができるような構成は、工夫が必要だが、能力がもともと高い生徒も低い生徒も自分の課題をもつことができれば意欲的に活動できると感じたので、今後も続けていきたい。共有の場面では、どちらの生徒も生かせるような活動を取り入れていきたい。